

# MONEY FOR PRESIDENT

## 高橋FPの 社長が知りたい お金の話

ファイナンシャル・プランナー  
高橋 学



57歳。証券会社勤務を経て、ファイナンシャル・プランナーとして独立。証券会社時代から多くの経営者をクライアントに持ち、お金に関するアドバイスをを行っている。

## 経営への備えとしての終身保険

### 貯蓄性と柔軟性に注目

こんにちは、高橋学です。今回は、「生命保険を活用した経営への備え方」について紹介します。

自分に万一のことがあった時、事業の継続や資金繰りが心配——このような不安を抱える経営者の中には、ご自身を被保険者、法人を保険金受取人とする生命保険の活用を検討する方が多いようです。では、こうしたリスクに備えるには、どのようなタイプの生命保険を選ぶのがよいのでしょうか？ 私は終身保険を考えてみるのも、有力な選択肢の1つだと考えています。

終身保険は、万一の保障が一生涯にわたって続く生命保険のこと（図表1）。「経営への備え」に向く理由として、①貯蓄性の高さに加え、②経営者のライフステージに応じて変化する多様な保障を、柔軟かつ効率的に確保できることが挙げられます。

### 終身保険のメリットと注意点

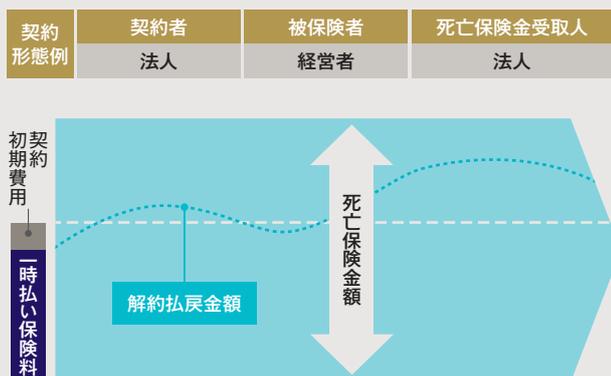
図表2に法人契約の終身保険活用例をまとめました。まず経営者の在職中、「会社としての備え」を厚くしたいステージです。経営者に万一のことがあった場合、法人が受

け取った死亡保険金は、事業資金として活用する他、「死亡退職金・弔慰金・自社株買いの資金」などに充てることもできます。

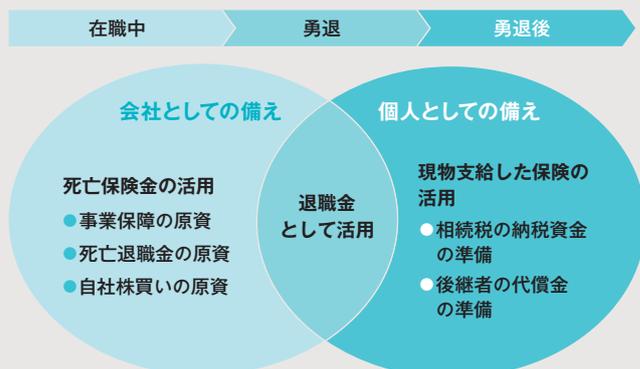
一方、勇退（退職）を機に「個人としての備え」が必要となるステージでは、解約払戻金を勇退退職金の原資として活用する他、生命保険を解約せずに勇退退職金の一部として経営者に現物支給することも考えられます。こうして受け取ったお金や保険契約は、勇退後の生活資金として活用する他、「相続や事業承継対策」に充てることも可能。先に終身保険は「経営者のライフステージに応じて変化する多様な保障を、柔軟かつ効率的に確保できる」と申し上げた意味が、改めて分かるのではないのでしょうか。

ただし、終身保険にも注意点があります。その1つ目は、定期保険などと比べ保険料が割高となる傾向があること。このため、どんな保障がどの程度必要になるのか、しっかりと考えることが欠かせません。2つ目は、終身保険の解約払戻金は、契約からの経過年数などにより変動すること。契約から一定期間経過しないと、払込保険料総額を下回るケースも出てきます。また、一口に終身保険と言っても商品により詳細は異なります。ご自身が希望する保障プランを実現できる商品か、事前の確認が欠かせません。 **M**

図表1 一時払い終身保険のイメージ



図表2 法人契約の終身保険活用例



(出所)各種資料をもとに筆者作成